



『よい年はつくるもの』

3学期の始め、一年の始めの挨拶です。『おはようございます。』（おはようございます。）今日は新年初めての挨拶です。「あけましておめでとうございます」の挨拶もしましょう。「あけましておめでとうございます。（「あけましておめでとうございます。」の返事）」「ことしもよろしくおねがいます。」（「今年もよろしく願います。」と元気に挨拶）さて、今日は皆さんを迎えていると、1年生も2年生も、3年生も4年生も、5年生も6年生も、立ちどまって、改まった様子で『明けましておめでとうございます。3学期もよろしく願います。』と笑顔で挨拶してくれます。

「今年は4年生になります。がんばります。」「2年生になってもよろしく願います。」と、うれしそうに言ってくれたり、6年生が「先生、今年もう卒業です。ちょっとドキドキしているけど、残りの3学期よろしく願います。」と言ってくれたりして、みんな新しい一年をしっかりと頑張ろうと思っているんだなあと思いました。

そして、今日は中学生も、笑顔で『おめでとうございます。』『今年もよろしく願います。』と、口々に挨拶してくれました。

「桃五の卒業生で中瀬中の3年生の男の子に、「今年もう卒業、春には高校生だね。いい年になるといいね…」と声をかけると、『自分で努力していい年にします。』と、元気に言ってくれました。そうですね。いい年になるのを待っているのではなくて、自分で、「いい年にする」んですね。思わず、「がんばれ。」と、中学生と握手してしまいました。

今朝、皆さんの教室を回ってみると、どの教室も皆さん迎える準備がしてあって、黒板にもいろいろ3学期を迎える言葉も書いてありました。その言葉の中で、「よい1年にしましょう。」という言葉がありました。「よい1年になるといいですね。」ではないのです。『しましょう。』なのです。そう、良い1年にするのもしないのも皆さん次第。

そこで、今日は『良い年は創るもの』という話をします。

私の教え子で、この半年くらいの間、海外に出張して仕事をしている男の子（いやもう子ではありません立派な大人ですが）がいます。

このお兄さんは去年、「今、海外で仕事をしています。がんばっていますが、この後も3年くらい海外で今の仕事をそのまま引き受けてくれないかといわれて、落ち込んでいます。日本での仕事の方がいいので今の仕事をやめてしまおうかとも思っています。」というお便りをくれたので心配していると、お正月にそのお兄さんが訪ねてきてくれて、「いやだいやだといっているもやらなければいけないことはある。どうせどんな仕事をしていても、大変なのは変わらない。だから逃げるのはやめてがんばってみることにしました。いやだと言っていたことを逆に良い方に変えていくようにがんばります。良い年にするのは自分ですから。」と言っていました。

今年も、会う機会があり、その後どうしているか聞くと、『やっぱり日本に帰ってくるとこちらの方がいいと思い、今いる海外の仕事に戻るのは憂鬱になりますが、仕事が始まると気持ちも変わって、またがんばって良い1年にしようという気持ちになります。』 「・・・。」

そうです。よい年は「自分の力でつくる」のです。待っていてもよい年が向こうからやってくるわけではありません。自分でよいことを呼ぶのです。自分でよい年にするのです。

皆さんは今年、どの人もみんな次の学年に進みます。1年生は2年生に、2年生は3年生に、3年生は4年生に、4年生は5年生に、5年生は6年生、そして6年生はあと3カ月ちょっとすると、もうここにはいません。中学生です。そのための始まりの月、準備の今日です。だから、自分の力で良い年を創る、そのための準備を、今日から3学期の間にしなければなりません。

先ほどのお兄さんのように、自分のやらなければいけないことから逃げてしまわずに、今年を自分の力で「よい1年」を創ってください。

お話、終わります。